

# 21年目の葉山

村山市立葉山中学校  
学校だより  
第6号  
令和6年6月25日

## 地区中学校総合体育大会を終えて

校長 富塚 義幸

地区中学校総合体育大会は6月15日（土）、16日（日）開催されました。19日（水）、報告会での各部長の言葉が胸に迫りました。コロナ禍や熱中症の影響を受け、「やりたくてもやれない日々」を何度も経験しました。3年生が一人で下級生をまとめてきた部もあります。辛かったことでしょう。それでも、やれることを全うし“応援される人”“応援されるチーム”にたくましく成長しました。よく頑張りました。「頑張れ」を「顔晴（がんばれ）」に変え、輝いた人がいます。2018年平昌（ピョンチャン）オリンピック、女子スピードスケート500mの金メダリスト 小平奈緒 選手です。山形新聞、平成30年2月19日の記事を紹介します。...

小平選手が、大切にしてきた言葉がある。「顔晴（がんばれ）」。長野県の伊那西高校3年の時に書いた作文のタイトルだ。中学2年で高校生らを抑えて全日本ジュニア選手権スプリントを制し、頭角を現していた小平選手。だが高校2年の冬、今までにないスランプに陥った。そのときの経験をつづった。「不安と焦り、悔しい思いを何度もした。スケートの楽しさを忘れてしまうくらいつらくて、自信が持てない自分が嫌いになった。結果が出ないから大好きなはずのスケートも楽しめるわけなくて、氷上で『笑う』ということがなくなった」夏の厳しい練習に耐え、すでに頑張ってきただけに、当時は周囲から「頑張れ」と言われると苦しかった。でも「頑張らなくていいんだよ」という言葉を聞いてもふに落ちず、前に進める気がしなかったという小平選手。そんなとき、ある北海道のコーチにもらった言葉が「顔晴」だった。「**本当のガンバレは顔が晴れたこと**。つらくても笑顔は忘れちゃいけない」「頑張れ」という言葉に疲れ、悔いばかりが残る毎日を過ごしていると感じていた。幼い頃は笑っていられたのに、いつの間にか下を向くようになっていた小平選手を救った言葉だった。作文はこう締めくくった。「笑顔でいること。良い記録を出すことより、何より笑顔で顔晴（がんば）ることが、今の私にできる、感謝の気持ち、恩返しだと思う」小平選手は高校3年の冬、全日本ジュニア選手権スプリントを4年ぶりに制覇した。...

### <山形県中学校総合体育大会に出場するチーム・個人>

☆ 卓球 女子団体 女子個人：菊池詩夢さん

☆ 剣道 女子団体 女子個人：仲嶋滯星さん 小林心陽さん 芦野樹里さん  
男子個人：三浦蒼空さん 門脇玄治さん

☆ 軟式野球

☆ 陸上競技 男子200m：笹原飛竜さん 女子200m：笹原実音さん  
棒高跳：小松蒼空さん 青柳 健さん 奥山天翔さん



卓球部の菊池詩夢さんは、「女子卓球部は、目標だった3連覇を達成することができました。一つの試合ごとに一人一人がどんどん成長していったことが、優勝につながったと思います。苦しい場面でもお互いに応援し合うことで、試合をしている人がいつも通りのプレーができました。県大会までに、今より50%以上レベルUPして、良い結果を残せるよう全身全霊で練習を頑張ります！」と力強く話してくれました。

# 6月のアルバム ～ 今を一生懸命＝全力！ ～

大会スローガン“いざ挑戦！～仲間と共にさらなる高みへ～”のもと、第64回北村山中学校総合体育大会が開催されました。葉山中学校の強みは、身体（腰骨）が真っすぐ・取り組みが真っすぐな『二つの姿勢の良さ』です。6月13日（木）壮行式での勇姿を特集します。

